

福岡大学病院歯科口腔外科における精神鎮静法の臨床統計的検討

小川 忠宏 瀬戸 美夏 古田 治彦
坂本悠三子 林田枝里子 喜久田利弘

福岡大学医学部医学科 歯科口腔外科学講座

要旨：医学部付属病院歯科口腔外科は口腔・顎顔面領域の外科手術などに限らず、基礎疾患を有する患者や開業歯科医院で治療困難とされた患者の一般歯科治療も行うといった特徴がある。当科では、循環器系疾患患者や歯科治療恐怖症患者に安全で快適な治療を行うために、精神鎮静法を積極的に併用している。今回、当科の鎮静法症例について統計し、検討を加えたので報告する。対象は当科にて、精神鎮静法を併用して処置を行った患者278例とした。施行した鎮静法（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法、前投薬法）によって、それぞれ基礎疾患、処置内容について外来・入院カルテからデータを抽出した。鎮静法施行症例は年々増加傾向を示していた。笑気吸入鎮静法症例では普通抜歯、一般歯科治療が多く、静脈内鎮静法症例では、大半が抜歯を含む観血的処置であった。年齢別に基礎疾患の占める割合についてみると、笑気吸入鎮静法症例、静脈内鎮静法症例ともに年齢が低いほど歯科治療恐怖症の占める割合が多く、年齢が高くなるにつれ、高血圧症や虚血性心疾患などの循環器疾患の占める割合が多くなり、歯科治療恐怖症の割合が低くなっていた。全症例において合併症の発生や基礎疾患の増悪なく処置を終了していた。我々は基礎疾患を有する患者や歯科治療に不安を持つ患者に対して積極的に精神鎮静法を併用し、良好な結果を得ることができていると考えられた。今後、口腔外科処置時の安全な全身管理を行うため、年齢、基礎疾患に応じたプロトコールの作成を行いたいと考えている。

キーワード：鎮静法、歯科口腔外科、全身管理